



講演を行う横田評議員

日本と韓国を海底トンネルでつなぐプランを語る「国際ハイウェイプロジェクト第2回日韓トンネル壱岐フォーラム」(日韓トンネル推進長崎県民会議など主催)が16日、壱岐の島ホールで開かれた。平成26年9月の第1回以来2年半ぶりの開催で、世話を務めている市議4人など約40人が出席した。

国際ハイウェイ財団(佐藤博文理事長)が進めているトンネル計画は、佐賀県唐津から壱岐、対馬を経て、韓国の巨濟島から釜山へ至る全長約270キロ。海底部分は約150キロで、唐津～壱岐間は約20キロ、壱岐～対馬間は約50キロとなっている。

唐津市には約20万平方メートルの基地を確保し、斜

日本と韓国を海底トンネルでつなぐプランを語る「国際ハイウェイプロジェクト第2回日韓トンネル壱岐フォーラム」(日韓トンネル推進長崎県民会議など主催)が16日、壱岐の島ホールで開かれた。平成26年9月の第1回以来2年半ぶりの開催で、世話を務めている市議4人など約40人が出席した。

国際ハイウェイ財団(佐藤博文理事長)が進めているトンネル計画は、佐賀県唐津から壱岐、対馬を経て、韓国の巨濟島から釜山へ至る全長約270キロ。海底部分は約150キロで、唐津～壱岐間は約20キロ、壱岐～対馬間は約50キロとなっている。

唐津市には約20万平方メートルの基地を確保し、斜

第2回壱岐フォーラム開催

日韓トンネル実現へ機運高める

抗(本抗を採掘するため必要な作業抗)を約540メートルまで掘り下げている。対馬市厳原の阿連地区にも40万平方メートルの敷地を確保し、26年9月に抗口オープ

ン式を実施した。

壱岐でも芦辺町諸吉本村触の馬ノ瀬地区に3万平方メートルを取得しており、同財団の横田浩一評議員は「できれば今年中に、壱岐での抗口オープ

ン式を行いたい」と話した。

青函トンネル、ユーロトンネルなどで示した日本の採掘技術からすれば不可能な計画ではないが、工賃は1兆円規模という巨額になることが予想されるため、日韓両国政府、そして国民の理解が必要になることから、同財団は全国32県に会議を設置。今年中には計40都府県まで広げる予定で、会議を通して国民の機運を盛り上げていく。

講演で横田評議員は「領土問題、歴史認識などで、いまは日韓の国民感情がもつれているが、だからこそアジ

アの平和と繁栄を目指す日韓トンネルが必要になる。蒸気機関車を発明した英国のジョージ・スチーブンソンの名言に『道をつくると文化が発展する』がある。英國とフランスではトンネルが交流の橋渡し役になつた。日韓トンネルもそのような

役割を担つてゐる」と話した。対馬市議会では23年に「日韓トンネルの目期建設を求める意見書」が採択され、横田評議員は「吉